

# 季節の風景 12月

## カレンダー



現在、日本で使われている太陽暦が採用されたのは、1872年（明治5年）のことです。当時、明治政府は「来る12月3日を新暦（太陽暦）の明治6年1月1日とする」と発表しました。

日本では、長らく月の満ち欠けをもとにした旧暦（太陽暦）を採用してきたのに、改暦の布告からわずか22日後の切り替えで、想像以上の混乱が広がったと言われています。12月が2日しかなく、翌年の暦を印刷済みの業者もいたそうです。

しかし、この改暦は、太陽暦を採用している諸外国と外交上で足並みをそろえるため、そして日本が文明国家に仲間入りしたことを海外に広くアピールするためのものでもあったのです。

ところが、社会は太陽暦にのっとって動いてはいませんが、大正・昭和に入るまで庶民の暮らしは、まだまだ旧暦によるところが大きかったようです。農村の種まきや祭礼日・法事などです。

来年は、どんなカレンダーをかけようか。そんなふうに思いを巡らすのも、年末の楽しみの一つですね。

### 窪川学校給食センター編

## Let's cooking!! おうちで給食レシピ

### チャーテの白あえ

【材 料】(4人分)

- ・チャーテ……………60g
- ・木綿豆腐……………120g
- ・ほうれん草……………60g
- ・白菜……………40g
- ・人参……………32g
- ・すりごま……………2g
- ・上白糖……………7g
- ・淡口醤油……………12g
- ・かつお節……………適量



<作り方>

- ①チャーテと人参は短冊切り、ほうれん草は長さ2cmに切る。白菜は1cm幅に切る。
- ②豆腐は水切りをし、つぶす。
- ③野菜は下茹でをし水分をよく絞り、豆腐と一緒に①の調味料で和えたら、できあがり。  
※かつお節は炒る。



### 10月 学校給食食材の放射能測定

	検査期間	セシウム134	セシウム137	ヨウ素131
窪川学校給食センター	10/1~7	不検出	不検出	不検出
大正学校給食センター	10/1~7	不検出	不検出	不検出
十和学校給食センター	10/1~7	不検出	不検出	不検出

実施日：令和2年10月22日  
検査機関：株式会社 日本食品エコロジー研究所 食品分析センター

※不検出とは測定下限値未満(<1.0Bq/kg)であることを示しています。検査に使用する食材は、約1週間分の原材料(調味料を除く)です。一定量を混合試料にして検査します。

### 今月の



### 追い求める究極の目標は

世界平和ですね!



ほりうち みき 堀内 美樹さん

「じゅうく」のスタッフ紹介・第二弾。今回は堀内美樹さんです。現在、上智大学総合グローバル学部4年生。3年生だった昨年、大学を休学して10月に赴任しました。現在は復学しているそうです。

ご出身は、富士山を南側に見る山梨県富士河口湖町。地元の小・中学校を卒業して、高校は山梨英和高等学校。なんとスクールバスで片道2時間の通学だったそうです。

英和高校を選んだ理由は、姉妹校である韓国の学校との交換留学制度があったから。



▲今日も生徒たちに会うのが楽しみです!

「実は、小学生の高学年の頃にKPOPにはまっちゃいました(笑)」KPOPを好きになったことをきっかけに、韓国のことを勉強するようになった堀内さんは、中学生になると文化だけでなく、日本の政治問題に至るまで深く学ぶようになりました。そんな中で自然に湧き上がった「実際のところ韓国ではどうなんだろう?実際に行って確かめたい!」という思いは次第に強くなっていったそうです。

そして英和高校2年生の時に念願の交換留学を果たしました。期間は1年間。「行ってみたいけど反日ではないということ。ホストファミリーの方々が始め、関わってくださる方々すべてが歓迎してくれましたし、本当に手厚くもてなしてくださいました」老若男女問わず、たいがいの人々は、政治問題と人間同士の交流とを混同していなかったといえます。

帰国後、堀内さんは外交官になることを目指し、国際政治、国際協力学を学ぶため同大学総合グローバル

ル学部へと進学。大学に入ってから、国際政治よりも、国際協力の方に重きを置いて学習。海外の貧困問題への関心を強め、スタディツアーでフィリピンへ。「自分が追い求める究極の目標は世界平和ですね」という堀内さんがそこで感じた絶望感は、さらに思考を深めることに拍車をかけます。そして見えてきたテーマが教育だったということ。

さらに、国外にばかり目を向けてきたけれど、もっと国内に目を向けてみようと思いついた時に縁あって「じゅうく」に出会いました。「じゅうく」のスタッフになって1年。「人が変化していく過程に寄り添いたずさわる喜び」を感じている堀内さんは、「じゅうく」に来てくれる生徒たちには、その人が納得する進路を進んでほしいと願っています。

気づく、行く、見る、感じる、学ぶ、知る、さらに気づく、行く、見る、感じる、さらに学ぶ、さらに知る...そうやって思考を深めてきた堀内さんの「きちんと深く学ぼう」という姿勢と実践には、本当に感服します。